

取組 テーマ	取組目標	具体的な活動内容		担当者	活動主体	取り組んだこと、その実績	１年を振り返って
省エネの 推進	学校生活の中で 省エネを推進す る活動を実践す る。	1	家庭科 「夏を涼しく爽やかに」という単元を通して、 自然環境を生かして快適に過ごす方法を考え、 実践する。	6年各担任	6年児童	1 6年 家庭科 「夏を涼しく爽やかに」という単元を通して、自然環境を生 かして快適に過ごす方法を考え、次のような実践を行った。 ・リデュースやリユース、リサイクルを用いて、省エネや節電 につながることを話し合い、エアコンや扇風機などを使わず に「涼しく感じる方法」を考えた。 2 委員会活動 「エコ・リサイクル委員会」という名称の委員会を設けて、 全児童へ、「資源を大切に使う気持ちをもとう」「節電・節水を推 進する気持ちをもとう」と訴え、ポスターを掲示して、啓発活動 を行った。	【取組の評価】□達成できた ☒ ほぼ達成した □達成できなかった 【理由】 ・3Rについて調べ学習を行い、工作を通して、知識を活動させる学習活 動が展開できたから。 ・児童に、エコ・リサイクルについての興味・関心を植え付け、その意義 や大切さを学ばせることができたから。 ・快適に過ごしやすいことを考えた上で、さらにエコの視点を持ち、 子どもたちの持っている知識と発想力で、学びを深められたから。 【今後の課題】 ・この取り組みを、日常生活に活用させることが、最も重要なことであ る。その点から考えると、児童の作った作品を、日常生活の中でどう生 かしていくかが、今後の課題と言える。 【次年度への引継ぎ事項】 ・今回の取り組みを次年度担当する職員へ引き継ぎ、さらに洗練された 単元づくりや授業づくりへ繋げていくこと。
		2	委員会活動 節電・節水・リユースなどについて学び、全校 児童へその大切さを呼び掛け、実質的な活動を 実践する。	エコ・リサ イクル委員 会	エコ・リ サイクル 委員会		
資源の再 利用や廃 棄物の削 減への取 り組み	ごみの分別の必 要性やその方法、 茅ヶ崎市におけ るごみ処理の仕 方などを、施設見 学やそこで働く 方々の話を伺い、 自分なりの考え をまとめる。	1	社会 ごみ処理やリサイクルの仕方を施設見学 や調べ学習から学び、ごみ減量化の意識を高め る。	4年各担任	4年児童	・茅ヶ崎市の環境事業センターを見学し、職員の方々より、説明 を受けた。そこで教わった「ごみは資源の源」という言葉を合 言葉に、各家庭でのごみの分別やごみ減量化の推進へ、活動を 広げられた。 ・会議等での「ペーパーレス化」を推進し、今年度も、学級だよ りや学年だよりなど、学校から各家庭へ紙に印刷して届けていた 情報を、児童用のタブレット端末を用いて、配信することに している。 ・委員会活動でも、ＩＣＴを積極的に取り入れ、全校に向けて行 ってきたアンケートや総選挙などを、児童用のタブレット端 末を用いて実施し、「ペーパーレス化」を推進した。	【取組の評価】□達成できた □ほぼ達成した □達成できなかった 【理由】 ・各家庭で、児童の声をきっかけに、ごみの分別やごみ減量化が進み、 各家庭でのごみ減量化に対する意識が高まったから。 ・ペーパーレス化の取り組みを確実に進めることができたから。 ・印刷を間違えてしまった紙も裏紙として使用できるように、裏紙用の 箱を作っていてそこから印刷をなるべくしているから。 【今後の課題】 ・児童の声をきっかけに、教職員や各家庭で、ごみへの意識や関心を高 められた。今後は、もっと効率よく、より効果的に広める手立てを模索 していきたい。 【次年度への引継ぎ事項】 ・「ごみは資源の源」という言葉を今後も使い、全学年で学習活動へ発展 させていくこと。 ・「ペーパーレス化」を、さらに推進させること。
		2	日常の学校生活や清掃活動をとおして、裏紙の 利用や雑巾洗いなどから、ごみ減量化や節約の 大切さを学ぶ。	仲よし級教 職員	仲よし級 児童		
		3	会議等で、積極的な裏紙の再利用やタブレット を用いたペーパーレス化に励み、資源の有効利 用に各自努める。	教職員	教職員		
		4	委員会活動 清掃時間でのごみの分別の徹底と 資源回収を呼び掛け、自発的で実質的な活動を 推進する。	エコ・リサ イクル委員 会	エコ・リ サイクル 委員会		
生き物や 緑を育成 する心の 育成	動植物の育成を とおして、児童に 「自然を大切す る心」を育てる。	1	生活科や理科 草花の栽培をとおして、植物の 存在の大切さを学び、自然を大切に作る心を育 てる。	1～5年各 担任 仲よし級各 担任	1～5年 児童 仲よし級 児童	・いろいろな植物を学年ごとに育てて、植物の生長や植物を慈し む気持ちの大切さを学んだ。 ・3年生は蚕を育てることを体験した。そこでは、蚕を大切に するだけでなく、桑の木を大切にすることを学んだり、生糸	【取組の評価】□達成できた ☒ ほぼ達成した □達成できなかった 【理由】 ・児童の育てた植物は、どれもほぼ順調に成長し、花を咲かせ、実をつ けることができ、世話をして育て上げる一連の体験を通して、動植物 の成長やそれを慈しむ気持ちの大切さを学ぶことができたから。
		2	理科 蚕の飼育と観察をとおして、生き物の世 話の仕方や自然を大切に作る心を育てる。	3年生各担 任	3年生児 童		

（様式１）学校エコ活動シート

		3	理科　メダカの飼育をとおして、生き物の世話の仕方や命の大切さを学ぶ。	５年生理科 専科	５年生児 童	（絹））ができる工程や産卵を知ったりして、命の大切さや命を慈しむ心を育てることができた。 ・ 命が命を繋げ、私たち人間の営みが成り立っていることなどを学んだ。	・ 蚕を育てることを通して、命の大切さや命を慈しむ心を育てること、命が命を繋げ、私たち人間の営みが成り立っていることなどを学ぶことができたから。 ・ 植木鉢を荒らしたり、植えた植物を抜いたりとイタズラがあったから。 【今後の課題】 ・ 酷暑と表現されるような、最近の異常に暑い夏を凌げる動植物の選定が必要なこと。 ・ 他学年の植木鉢をもっと大切に扱うよう指導が必要なこと。 【次年度への引継ぎ事項】 ・ 生き物を扱う以上、死なせないような正しい世話の仕方やコツを、次に担当する職員へ確実に引き継いでいくこと。
--	--	---	------------------------------------	-------------	-----------	---	---

●写真等の記録：活動や発表の風景等取組の記録を、必要に応じて添付してください。写真等の下に、キャプションをご記入ください。個人情報の取り扱いにご注意ください。



「蚕の飼育と観察」（3年）

小さな、小さな蚕の卵から蚕が生まれ、桑の葉を食べて、日に日に大きくなっていく様子に、児童は驚いていた。

はじめは、子どもたちは蚕を見て、「気持ち悪い」「触りたくない」といった声上がり、前向きに育てていけるか不安になったと、ある教員が話していた。

しかし、子どもたちの気持ちはある時をきっかけに変化していった。それはクラスみんなで桑の葉を取りに行って、蚕に上げた時である。そこで、子どもたちは蚕に興味をもちはじめた。桑の葉を上げていくうちに、気持ち悪かった蚕が「かわいい」に変わり、さらに興味をもち、成長記録をとっていった。そこでは、蚕をより詳しく何が蚕にとって幸せに成長していけるのかを考えた。

最後の方には、繭の作られ方を実際に肉眼で見ることができたことが子どもたちにとって新しい経験となり、生き物も食べ物を食べて大きくなり、レベルアップするためにはその生き物自身も頑張っていることを知れたことがよかったと、ある教員が嬉しそうに話していた。

蚕が作った繭は、まゆ人形として使い、中身のさなぎは、3年生で育てている大豆の畑に肥料として利用し、命を大切にすることも学ぶことができた。

●学校長（推進責任者）によるコメント

【学校長名】

工藤 裕一郎

【今後の方向性について】

省エネルギーの推進や、廃棄物削減等の取り組みや自然や命を大切にする取り組みについて

は、特別な学習や活動を行うのではなく、「日常の生活を見直す・問い直す」という視点が非常に

大切であると考えている。